

◆Topic◆ この問題できる？（リーディングスキルテスト） —言葉を理解する—

(1)「仏教は東南アジア、東アジアに、キリスト教はヨーロッパ、南北アメリカ、オセアニアに、イスラム教は北アフリカ、西アジア、中央アジア、東南アジアに主に広がっている。」

問 上記文脈において、以下の文中の（ ）にあてはまる最も適当なものを1つ選びなさい。

「オセアニアに広がっているのは（ ①イスラム教 ②ヒンドゥー教 ③キリスト教 ④仏教 ）である」

(2)「エベレスト山の地層から、大昔に生きていた海の生物の化石が見つかった。」

問 上記文に書かれたことが正しいとき、下記の文は①正しい、②間違っている、③これでは判断できない、のどれか。

「海の生物の化石が山の地層で見つかることはない」

(3)「近畿地方を中心に、領主や鎌倉幕府に従わず、年貢をうばう武士があらわれた。」

問 上記文脈において、以下の文中の（ ）にあてはまる最も適当なものを1つ選びなさい。

「年貢をうばうのは（ ①近畿地方 ②領主 ③鎌倉幕府 ④武士 ）である。」

—教育のための科学研究所 HP より引用—

将来、AI（人工知能）が人の仕事を奪い、仕事がない（収入がない）人が世の中に溢れるのではないかという不安がよく耳に入ってくる。ところで「東ロボ君プロジェクト」は知っているだろうか？ 国立情報学研究所が AI に学習をさせて、入学試験でどこまでできるかを研究したプロジェクトのことだ。東ロボ君は毎年センター試験を受け、2016年までに7割近くの大学でA判定をもらう学力（偏差値57）が身に付いたという結果が出たところでプロジェクトは終了した。ここで誤解をしてはいけないことがある。AIは意味がわかって正解を出しているのではないということだ。膨大なデータを並べ替えたり、数式にしたがって処理をすることで「正解は〇〇の可能性が高い」という結論にたどり着いているだけである。AIは言葉の意味さえもわかっていない。ここがAIの限界で、偏差値57以上へはたどり着けないことがわかったというのがプロジェクトの結論である。

人間は将来、AIが分担する仕事ではないところで活躍することを考えなければなりません。言い換えれば、より人間らしさを磨いて人間らしく働くことを考えたいものです。そのために大事なことは、AIにできないことを鍛えておくことです。それは「言葉で理解する」「真の意味を理解する」という能力です。先ほどのプロジェクトの結果は、残念ながら「意味がわからなくても偏差値57に到達できる」ということも示してしまいました。だから「意味が分からないけど覚えておけばいい」という感覚で受験し大学生になっている人もおそろくいるのです。しかしここは人間です。「意味もわからず覚えておく」ことの無意味さをちゃんと理解し、時間がかかっても根気強く、意味ある学習を続けましょう。それがまず大事です。リーディングスキルテストの正解：(1)③ (2)② (3)④ （文責：岡崎）

『3年の窓』 日本人は飽きっぽい民族です。日本車は4年ごとにフルモデルチェンジをするし、ダイエットもココアがいい、炭水化物を摂らないのがいい、、、次から次へとダイエット法を変えていきます。伊勢神宮の神様でさえ20年に一度、引っ越しをされます。しかし流行と不易（変わらないもの）があります。それは受験勉強のやり方です。

センター試験まで3ヶ月半となり、受験生、保護者、教師の3者がそれぞれの立場でヒリついた雰囲気になってきています。

Persistence will pay off.(粘ることは、報われるだろう＝継続は力なり)

継続的な努力は、次の条件がそろえば報われます。正しい場所（学校と家庭で）、正しい方向（センター試験に向けて）、十分な量（学校で5時間、自宅で5～7時間の学習）がなされるならば、ということです。30年前も平成の現在も変わりません。

一般論的にも、松田自身の経験から考えても、大学入試前の3ヶ月半を努力して頑張れる人は、この先の人生において1年、3年と頑張ることができます。

特に若いうちは苦勞するように人生は設計されています。英検などの資格試験、就職試験の勉強、社会に出てから覚えなければならないことなど、様々なシーンで受験勉強の巻張りが生きてくるでしょう。これが大学入試合格だけでなく受験勉強のもう一つのメリットです。ここはひとつ、継続的に努力してみようではありませんか！（文責：松田琢磨）

『2年の窓』

折り返し地点

今回の期末考査は、高校生活の折り返し地点、終わるといよいよ後半戦です。これまでの学習への意識は客観的にみて、どう思いますか？

当たり前のように小テストの再試を繰り返したり、なんとなく課題をこなしたりしていませんか。残念ながらそのような姿が垣間見えるような気がします。

これまでは国語・数学・英語の三教科のみだった模試も11月の進研模試からは理科・社会が加わります。ますますやらなければいけないことは増えていきます。余裕もなくなり、3年生になったころにはいくつかの教科を「捨てる」ことを意識し始める人も少なくありません。

しかし教科を絞ったところでその分絞った教科の点数や偏差値を爆発的に伸ばすことのできた人をほとんど見たことがありません。ただ単に自分の可能性や選択肢を狭めてしまっただけの先輩の方が多いような気がします。

「捨てる」はその場では楽な選択です。しかしかえって自分の首を絞めてしまうことにもなりかねません。最後の最後まで頑張ってみてから決めることだってできます。「どうしても無理！」とはっきり言えるほど本気は出せていますか？

やるべきことは増えていきます。ではどのように立ち向かえばいいのか。日頃の積み重ねしかありません。なんとなく、その場しのぎでやっていた勉強を「定着させる」ための勉強に変えていく。それができなければ、結果は低空飛行のままではないでしょうか。

模試だってそうです。きちんと見直しや復習はできていますか？過去問演習をやることも増えてくると思います。それをやること自体が目的ではなく、そこで自分の課題を見つけ出すことが目的です。

小テストは学習の動機づけに、模試は自分の弱点の発見に、日頃の学習への意識を変えるのは今しかありません。

(文責：安藤 均)

『1年の窓』

『ポートフォリオ』

1年生は、先月高校に入学してからの活動をポートフォリオに記入をしました。満足のできる活動報告を記録することが出来ましたか？大学受験の際の自己アピールつながっていますか？

委員会や教科系の記録について

「たまたま教科系になっただけ・・・課題集めて、出席番号順に揃えて先生のところに持っていくことはやれているよ！」と思っている人。この仕事をもっと主体的に取り組んでみてはどうでしょうか？例えば、課題を持って行った時、「点検が終わったら取りに来ます！！いつ来たらいいですか？今度の授業の準備は？」などと聞けば意欲が伝わりますし、自らのやる気につながり、クラスメイトや先生に対して貢献できる活動となります。また、人との関わりが増えることで、新たな発見があるかもしれません。物事は取り組み方、気持ちの持ち方次第で結果が大きく変わります。

これも今注目されている『主体的・対話的で深い学び』の一つではないでしょうか。

いよいよ後期が始まります。自慢できる活動がポートフォリオに残せるよう現在の取組みをバージョンアップさせる。新しい取り組みにチャレンジする。飛躍する後期にしてください！

(文責：西崎喜美子)

【今後の1年生進路行事】

10/3 土 職業まるわかり講座

志望校の受験科目調べ

10/9～ 二者懇談

10/10 水 進路系統別ガイダンス (希望者)

10/18 木 進路説明会(7限)

10/19 金 保護者進路説明会(バロー文化ホール)

10/25 木 進路講演会(6.7限)

11月文理選択 本登録！！